

平成 30 年度 第 2 回 大阪府立春日丘高等学校 学校運営協議会（定時制の部）

平成 30 年 11 月 27 日（火）19：00～21：00

場所：ウイステリアホール

協議会委員 中鹿 直樹 委員（立命館大学准教授）、中鹿 彰 委員（追手門学院大学教授）  
片岡 誠 委員（本校後援会長）、長田 佳久 委員（本校卒業生）  
新居 真理 委員（保護者・本校振興会副会長）、久保 博 委員（茨木市立西中学校長）  
事務局 平岡 香子（准校長）、島田 一（教頭）、竹内 秀行（首席）、浅原 幸三（主査）  
江菅 純一、中村 充希、小谷 貴昌（以上、教員）

第 1 部 1. 准校長より

2. 現状報告について（教頭より）

○「学校行事及び部活動等の取り組み」について

I 本校の行事について

- ・体育祭、文化祭、校外学習、修学旅行、球技大会

II 部活動の紹介

- ・全国 テニス部、陸上部、科学部、秋季発表大会の紹介

○「人材育成の取り組み」について

I 授業力向上研修について（年間 5 回）

他に年 2 回授業見学週間を設置

II 初任者への支援

法定研修、定時制通信制高校合同研修、校内研修（OJT）

初任者の研究授業（映像で紹介）

III ミドルリーダーの育成

- ・ベテラン教員の転勤、定時制経験の少ない教員が増加
- ・生徒数減による教員定数の減→教育庁の育成支援チーム事業を活用し検討中

第 2 部

■前回の協議内容について

○生徒数減少について、校務運営や行事における他校との連携等

⇒・行事については近隣の学校との連携は困難が多い

- ・実業高校が主催している部活動の大会参等で定時制高校間では連携を図っている（実定総体）
- ・秋季生徒発表大会ではオール大阪の単位制通信制高校の生徒との交流を図っている
- ・校務運営については教育庁の育成支援チーム事業を活用し検討している

○いじめが生じた場合の加害者側支援について

⇒・スクールソーシャルワーカーやカウンセラーを含め、いじめ対策委員会において、加害者・被害者双方に支援することを確認。

○全日制との意見交換

⇒ 学校運営協議会は学校運営に関し、それぞれの部会で承認することとなっており、これを活用し交流を深めたい。

## ■本日の協議

### ○行事の在り方について

- ・各行事で活発に活動していることがわかった。部活動では全国大会への出場や科学部の発表など賞を取られていることがすばらしい。
- ・生徒減について教員の負担、ミドル層がいないなど学校運営での大変さが見える。
- ・外部の力を利用できないものか。たとえば体育祭を一緒にする大学生の活用や大学のボランティアセンターの窓口の声かけをしてみたらどうか  
⇒ 文化祭前には実際に大学の学生が参加した。

### ○授業力向上について

- ・授業見学について、どの程度見に行っているのか。また、フィードバックはどのように行っているのか。  
⇒ 見学週間だけでなく随時見学は可能としている教員もおり、フィードバックに関しては評価表を活用している。管理職は年 2 回の見学をしており、面談やペーパーでフィードバックしている。
- ・大学の場合は管理職が見学してフィードバック、他に専門の部門が行っていることもある。大学でも数学の授業などは学力差があるので、統計などはどのように教えるのかが大変であり、課題でもある。
- ・授業力向上や先生方の研修について、小学校で調査した際、組織としての研修も大事だが、先輩の話聞くことで効果があることがわかった。先生方の相談できる場があるとよい。  
⇒ 職員室の一本化を検討しており相談しやすい環境を整えていく。
- ・授業見学でのフィードバックをしているのがよい。
- ・教科別で授業見学するとよい。フィードバック後の状況を把握することが大切。

### ○人材育成について

- ・年齢構成はすべての学校で同様のことが起こっている。
- ・40代が少数なので、30代の先生が中心となるだろう。学校規模が縮小され、教員数も減少しているので、人数に見合ったことをしていけないといけない反面、伝統を引き継いでいくことも重要。
- ・新任の担当に再任用教員を充てるなど、ベテランが指導方法をうまく教えてくれると思う。
- ・ミドルリーダーの育成を行っているのは安心。
- ・育成支援チームの結果を反映させてもらいたい。フィードバックしてほしい
- ・初任者への OJT は一般企業ではステップアップ方式。現在の方法よりもっと明確にしたらよいのではないか。
- ・研修については、組織全体としては投資が必要。各個人が様々な研修をし、意見交換などを行い、レベルを上げていく。階層別、経験別で行うこと大切である。

### ○その他

- ・プロジェクターなどを使用しての説明はわかりやすいので（今後も）続けてほしい。